

## 発 言 通 告 書 （ 質 問 ）

次のとおり、①. 一般質問 2. 施政方針に対する質問 3. 緊急質問) の通告をいたします。

平成 20年 9月 日

富士市議会議長様

富士市議会議員 小池 智明 印

受 付 No. .... 平成 年 月 日 午(前・後) 時 分 受理者
---

( 小池智明議員 2 -1 )

発言項目	第五次富士市総合計画の策定と進行管理について	
要 旨 (具体的に記入してください)	答弁を求める者	
<p>本年度から第五次富士市総合計画の策定作業が始まっている。</p> <p>総合計画は、「市の政策推進の基となるもので、行政運営の総合的かつ計画的な執行をするための指針である」とされる。</p> <p>一方、市長は就任以来今日まで、「市民に軸足を置いた市政」を標榜されてきた。また、「市民の満足度を最大化することが行政活動＝市役所の使命だ」と常々言っておられる。</p> <p>これは、市民を顧客として捉え、一見すると市民の要望は全て行政サービスとして実施することにより、市民の満足度を高めることだ、と取られ兼ねないが、それは大きな間違いであることは明白だ。</p> <p>1 つは、今後ますます厳しくなる財政条件を考えれば、公的分野のサービスを行政だけで行うことはもはや不可能だ。</p> <p>もう 1 つは、より多くの市民の自主的な取り組みの方が、多彩なアイデアにあふれ効果的なサービスとなる場合が多く、また参加することによってコミュニティの更なる醸成や地域への愛着の深まり等が期待されるからと考える。</p> <p>つまり、「市民と行政の協働」の上で市民満足度を目指すことが必要であり、市長の本意もそこにあるものと拝察される。</p> <p>そうした中では、第五次総合計画は、①作りっ放しの計画ではなく、計画の達成度とその後の課題が常に確認できるような「PDCAサイクル」(計画、実施、評価、改善)のもとで進行管理できる計画とすべきであり、②その全ての面で「協働」がキーワードになるものとする。</p>	<p>市長及び担当部長</p>	

<p>このような考え方の下、以下の点について質問する。</p> <p>1 「D o = 施策や取り組みの実施」に関し、行政の役割を中心にとりまとめる「行政計画」としてだけでなく、市民の役割もしっかり議論し、明確に位置づけた「行政+市民のまちづくり計画」とすべきではないか。</p> <p>2 「P l a n = 計画策定」、「C h e c k = 評価」、「A c t i o n = 改善」を進めるにあたり、</p> <p>(1) 行政評価システムを組み込み、それによってしっかりした計画の進行管理を行うべきと考えるがいかがか</p> <p>(2) 行政評価の最上位に位置する「政策評価」は、行政内部の評価ではなく、顧客である市民が評価することとされている。そうであるなら、評価の項目は、市民にわかりやすい生活感覚の中から選定された項目を数値目標として設定すべきであり、その目標値の達成具合によって評価すべきと考えるがいかがか</p> <p>(3) 数値目標の設定を行うとともに、「1」で述べた市民の役割を検討するためには、計画の策定作業そのものに、地域別のまちづくり推進会議とは別に、市民側の検討組織をつくり、計画策定に取り組むべきではないか</p> <p>(4) 大所高所から計画を検討する総合計画審議会は、計画策定時（P l a n）だけでなく、その後の進行管理の中で継続的な評価（C h e c k）も行う機関とすべきであり、「富士市総合計画審議会条例」を見直すべきではないか</p>	<p>市長及び担当部長</p>
---	-----------------